

事務局便り

令和4年5月10日

コロナ禍も3年目、令和4年度がスタートしました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。新学期のお疲れが、連休で取れましたでしょうか。

全国家庭科教育協会は、本年度も、家庭科教育の振興・発展のための活動を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

—ハイフレックス型 令和3年度春期研修会 無事終了!—

*「家庭科で教えたいお金の教育」について研修を深めました!

3月29日の春期研修会は、プロの業者を入れることなく、役員・常任理事、事務局が力をあわせ、ハイフレックス型で開催しました。開催前、何度もリハーサルを行い、会場参加の先生もオンライン参加の先生も、満足いただけるよう準備をしました。皆さまのご協力もあり、無事終了することができ、アンケートでも好評をいただき安心いたしました。頂戴したご意見は、研究大会に生かしていきたいと思っております。

河口真理子先生のご講演は、予め用意されたパワーポイントの資料を元に、わかりやすいお話でした。ご講演の要旨を、機関誌2号にご執筆いただいておりますので、ぜひお読みください。アンケートの一部を紹介します。「金融教育に関するさまざまな解説で、どうして金融教育がもとめられているのか、とてもよくわかった。」「社会におけるお金の役割、投資の意義について詳しく教えていただけてよかった。現在は、環境との関連は大変大きな課題になっていると思いました。」なお、河口先生のパワーポイント資料の授業での活用については、ホームページに掲載しましたのでご確認ください。

午後は、3~4名のグループに分かれ、河口先生のご講演のまとめや情報交換後、家庭科では、お金の教育のどんな授業が提案できるかを考えました。最後に各グループから話し合った授業案を発表してまとめました。「家庭科で教えたいお金の教育」について、考えさせられた1日でした。

—令和4年度の研究大会、及び夏期研修会の詳細が決まりました—

*第72回研究大会 8月2日(火)・3日(水) ハイフレックス型での開催

◎会場参加・オンライン(Zoom)参加のどちらかを選んでの参加です

同封した「第72回 全国家庭科教育協会研究大会」のご案内をご覧ください。3年ぶりに以前と同様の内容での研究大会を開催することとしました。1日目には、大阪大学大学院人間科学研究科教授 志水宏吉先生に「公教育の現在—ペアレントクラシーの視点から」をご講演いただきます。志水先生には、平成29年度4号発行の機関誌『家庭科』に「つながり」の力が子どもを育てる」をご寄稿いただき、今回さらに直接お話を聞く機会を設けました。志水先生をはじめ講師の先生方は全員、会場に来て頂く予定です。発表者は、参加者と同様、会場・オンラインを選択していただいておりますが、今のところ会場参加を多く希望されています。会場の関係で、会場参加は50名までの先着順ですのでご注意ください。

3年越しで準備していただいた滋賀県、東京都、熊本県、埼玉県、愛媛県の先生方の研究発表が楽しみです。

午後の校種別研修会

小・中学校部会: 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 熊谷有紀子 先生による「**家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における学習評価**」の講義を中心に研究協議をします。

高等学校部会: 茨城大学教育学部 准教授 石島 恵美子 先生による「**学びを深める問題解決型調理実習**」の講義とグループワークを予定しています。

*夏期研修会「授業に生かす被服教材づくり」 会場：中央区立晴海中学校

制服の余り生地を残反と言うそうです。残反を賛助会員のチクマ様と菅公学生服様からご提供いただき、「タブレットケース」と「くまのぬいぐるみ」を作ります。

詳しくは、同封のご案内をご覧ください。Google フォームでのお申し込みとなります。申し込み締切日が、材料の準備の都合上、7月11日締切として、研究大会より早くなっていますのでお気をつけください。

「授業に生かす食生活研修会」は残念ですが、会場が取れず、本年度も開催できません。

—ホームページの賛助会のページをご活用ください！—

昨年度から事務局だよりでお伝えしているとおり、高等学校の新学習指導要領の実施に伴い、金融教育の関係者の賛助会員が増えております。そして、その賛助会員の皆さまから、同封させていただいたチラシの封入依頼や、ホームページに掲載するさまざまなリンクを頂いております。[ZKKのホームページの左端「Contents」の「賛助会」をクリックしていただく](#)と、賛助会員の皆さまからご提供頂いたリンクを開くことができます。ぜひ一度、ご覧ください。金融教育以外のリンクも豊富ですので、研修を深めるとともに、授業にも活用できるかと思えます。

—機関誌1号「格差に向き合う」 編集後記—

令和4年度の機関誌「家庭科」は、年間テーマ「新時代に向かって」とし、1号は、「格差に向き合う」として編集しております。格差社会が問題になって長きにわたりますが、どのように向き合っていくのかを3名の先生方にご執筆いただきました。お一人目は、「親ガチャ」という言葉がSNS上で話題になったとき、丁寧な解説をされた土井隆義先生に執筆いただきました。経済格差と関係格差の固定化を打破する手段の提案は、私たち教育関係者は日々の実践に生かせるものではないでしょうか。二人目の前馬優策先生には、教育格差問題について、多くの文献（夏の研究大会講師の志水先生の論文も有）を引用しながら、家庭科教育と関連させながら、格差問題への向かい方を提案していただきました。最後の小林美穂子さんは、「コロナ禍の東京を駆ける一緊急事態宣言下の困窮者支援日記」（岩波書店2020年11月発行）の著者です。この本を読んで、感銘を受けていたので、「格差」がテーマになった本号で依頼をさせてもらったところ、「家庭科教育に求めること」が題名についてきて、大変嬉しく、そして、背筋が伸びる思いがいたしました。

本年度のシリーズは、「性的指向・性自認・性別表現の多様性が尊重される社会の実現のために」を4回で、宝塚大学の日高康晴先生にご執筆頂きます。1号は、基礎知識的な内容となっています。2号、4号、5号と続きます。

<はじめまして>

令和4年度より全国家庭科教育協会の事務局長となりました浅井直美と申します。

一昨年度まで、東京都の公立中学校で37年間家庭科の教員を務めておりました。その間、本協会の常任理事を、平成23年度より務め、機関誌の編集に携わっておりました。本協会は、戦後の不安定であった家庭科教育を存続させ、70年以上の長きにわたり、家庭科教育の振興・発展をはかってきた団体です。この団体の事務局で働けることを大変嬉しく思っております。

まだまだ不慣れですのでご心配をおかけすることもあるかもしれませんが、誠心誠意頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

